



JSBMR Newsletter No. 10

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

第26回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2008年10月29日(水)～10月31日(金)

会 場: 大阪国際会議場

会 長: 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
生体情報内科学 教授 松本 俊夫

ホームページ: <http://www.convention.co.jp/jsbmr26/index.html>

会長挨拶: 第26回日本骨代謝学会開催にあたって

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学
松本 俊夫

この度、平成20年10月29日～31日に大阪国際会議場で開催されます第26回日本骨代謝学会の会長を務めさせて頂くこととなりました。日本における骨代謝研究のプレミア学会である本学会を主催させて頂くことを大変光栄に思います。

近年の骨代謝研究の進歩には目覚ましいものがありますが、中でもブレークスルーとなるような研究の多くがこの日本骨代謝学会から世界に向けて発信されてきたことは特筆に値すると思います。すなわち、後に世界的な注目を集める論文として発表された仕事の本学会において数多く報告されてきたということです。基礎系、内科系臨床、外科系臨床、歯科系臨床など、幅広い領域からの臨床医や研究者を集めた本学会が、境界領域の開拓に欠かせない相互の情報交換や交流、さらには共同研究の発祥地として大きな役割を担ってきたと言えます。今回も、参加された会員の皆様にとって有意義かつ実り多い学会となりますよう、海外からの招聘講演を含め最新の研究成果の交流の場としたいと思います。また今回は、あり方委員会(加藤茂明委員長)の提案により、内科系、外科系、基礎系からそれぞれ若手を中心としたシンポジウムを一つずつ3年間に亘り企画して頂くという試みの初回ともなります。新進気鋭の研究者を交えた活発な討論の場となることを期待しています。

本学会の重要な課題の一つに国際交流と本学会の国際化があります。今回も出来るだけ多くの英語セッションを設け海外からの参加者との交流の拡充を図ると共に、応募演題の中から平成21年3月21日～25日にシドニーで開催される国際骨代謝学会(IBMS)への travel award も演題募集と同時に募集しました。本学会で発表される多くの優れた研究がまた広く国際的に評価されることを願っています。

今回の骨代謝学会のもう一つの大きな特徴は、これまでで初めて日本骨粗鬆症学会との間で10月31日(金)の最終日を合同開催とし、記念行事や合同シンポジウムを含めた共同企画を組んだことです。この機会に、両学会の交流を深め臨床研究、基礎研究のバランス良い発展に繋がれば何よりと思います。

本学会が多数の方々のご参加と活発な討論の場となり、わが国の骨代謝研究の更なる発展に寄与すると共に、新たに参加された臨床医や研究者の一人でも多くに骨代謝領域への関心を高めて頂くきっかけとなることを期待しています。

*新しい情報、学会内容はホームページ(<http://www.convention.co.jp/jsbmr26/index.html>)に随時掲載、更新いたします。

2007 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2007 年 4 月 ~ 2007 年 11 月末)

2007 年度 第 1 回理事会議事録

日 時: 2007 年 5 月 25 日(金) 15:00 ~ 17:00

会 場: 千里ライフサイエンスセンター6 階 G603 会議室

議 事:

学会誌編集委員会報告について(松本理事長)

編集事務局より JBMM 投稿状況、発行状況について報告があった。2007 年 1 月 1 日 ~ 5 月 20 日まで合計 97 編の投稿があり、昨年と比較して投稿数が 5 割増加し採択率は 40% 余りであること、ならびに Vol.25 No.6 までの掲載論文はほぼ決定している旨の報告があった。

現在、Associate Editor へ平均して月 2 回論文審査を依頼しているが、投稿数に増加に伴い月 3 回の頻度になることを懸念し増員が必要かどうかについて協議があった。審議の結果、当面は現在の人数で担当することとした。

2006 年度第 4 回理事会議事録(案)の承認

2006 年度第 4 回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、太田理事、杉本理事が担当することとなった。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より 2007 年 3 月 31 日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。なお、5 月上旬に行われた IBMS 役員選挙について、会長候補に野田理事が、また理事候補に加藤理事がノミネートされ、Mail News にて会員への投票の呼びかけを行った旨の報告があった。また、Prof.Fleisch (IBMS 前会長)のご逝去に際し、慣例にない 1000 スイスフランを寄付する旨を確認した。

2. 各種委員会報告

1) 国際渉外委員会(米田委員長)

米田委員長より、2007 年度 IBMS の Asian Session は演者が確保できず開催中止となったが、2 年後シドニーで行われる大会では開催予定である旨の報告があった。また、来年度 IOF-ANZBMS について、2006 年度実施した若手研究者のための Travel Award を実施してはどうかとの提案があり了承した。

2) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

中村委員長より、QOL 評価質問表 2000 年度改訂版の妥当性についての検証が完了した旨の報告があった。

3) 骨密度基準値設定委員会(福永委員長)

福永委員長より、骨密度のデータ収集作業がほぼ終了し解析作業に入っている旨の報告があり、7 月の学術集会にて報告の予定である旨報告があった。

3. 第 25 回日本骨代謝学会準備状況について(高岡第 25 回会長)

高岡第 25 回会長ならびに小池幹事より、第 25 回学術集會準備状況について最終報告があった。主な報告事項は以下のとおり。

- ・一般口演 268 題の申込があり、査読後に口演 102 題、ポスター 166 題を決定した。
- ・演題締切を 1 週間延長したが追加申込は 6 題であった。
- ・展示企業は 10 社以上を予定しており、展示会場にはインターネットカフェを設置する予定である。
- ・海外招待演者の日程はほぼ確定した。
- ・Kaplan 教授の特別講演時には、FOP 患者家族会と同教授との懇談会を企画し、マスコミの取材も許可する予定である。

4. 第 26 回日本骨代謝学会準備状況について(松本第 26 回会長)

松本第 26 回会長より、2008 年度の日程、会場について報告があった。骨粗鬆症学会との合同開催の詳細な企画や、国際化に向けた取り組みおよび特別講演・シンポジウムの企画については、評議員へアンケートを取り、具体的に決定する旨を確認した。

5. IBMS Election について(松本理事長)

松本理事長より、庶務報告にて報告のあったとおり IBMS の役員選挙に対し会員に向けて野田理事、加藤理事の投票の呼びかけを行った結果、加藤理事が Board member に当選した旨、報告があった。

< 審議事項 >

1. 2006 年度収支決算報告(案)について(吉川理事)

吉川理事より、2006 年度収支決算報告(案)について報告があり承認した。主な報告事項は以下のとおり。

- ・学会賞等賞金: 2006 年度は 1 社のみ協賛であった。
- ・雑収入: IOF トラベルアワード受賞者より 1 名返金があったこと、および骨粗鬆症学会との「骨粗鬆症の診断と治療ガイドライン」著作権料が発生したため、予算より大幅に増額した
- ・JBMM 別刷販売: ステロイドガイドライン転載使用依頼があったため、予算より 2 倍以上の入金があった。
- ・会誌刊行費: 従来(1-12 月)分の前払にて印刷費を支出していたところを、会計年度を科研費報告書年度(4-3 月)に揃え、今期を調整年として 1/4 期分(1-3 月)のみの支出としたため、予算より大幅に下回ることとなった。

2. 2006 年度会計監査について(乗松監事)

乗松監事より、清野、乗松両監事が、それぞれ会計監査を行ない、帳簿および伝票など資料を確認した結果、経理は適正に執行されている旨、報告があった。

3. 2007 年度予算(案)について(吉川理事)

吉川理事より、2006 年度予算案について説明があり、一部修正のうえ、承認した。

4. 学術賞・奨励賞の選考について(高岡選考委員長)

高岡選考委員長より、理事会に先立ち開催された学術賞・奨励賞選考委員会で選出した下記候補者の提示があり、協議の結果承認した。

【学術賞】

< 外科系 >

脇谷 滋之

(大阪市立大学大学院医学研究科整形外科学)

< 内科系 >

山口 徹

(島根大学医学部内科学講座内科学第一)

< 基礎系 >

該当者なし

【奨励賞】

< 基礎系 >

今井 祐記

(東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)

納富 拓也

(大阪市立大学大学院医学研究科分子細胞生理学)

< 臨床系 >

今井 一博

(東京都老人医療センター整形外科)

岡 敬之

(東京大学医学部 22世紀医療センター)

5. 学会賞の選考について(松本理事長)

松本理事長より、今年の学会賞選考について、推薦者が無かった旨報告があり、今年度は該当者無しとした。

6. 新評議員の推薦について(松本理事長)

松本理事長より、滝川理事、山本評議員より窪木拓男岡山大学教授の推薦、および山口副理事長、野田理事より森山啓司東京医科歯科大学教授の推薦のあった旨報告があり、全会一致にて承認した。

7. 役員改選について(松本理事長)

松本理事長より、今年度役員改選年にあたり任期満了となる理事、監事の提示があり、次回7月の理事会にて分野ごとに協議する旨を確認した。

8. 学会ホームページの改訂について(松本理事長)

事務局より、学会ホームページデザインの改訂案について提示があり、出席理事の多数決により基本とする案を決定した。

9. JBMM 翻訳の依頼について(松本理事長)

事務局より、クインテッセンス出版の「歯科臨床研究」について JBMM Vol.24 p.248-254 の翻訳出版の依頼があった旨報告があった。協議の結果、印刷所との契約に基づく著作権料にて対応する旨を確認した。

2007年度 第2回理事会議事録

(旧理事会)

日 時: 2007年7月18日(金) 13:00~14:00

会 場: 大阪国際会議場 10階 1101-2会議室

議 事:

2007年度第1回理事会議事録(案)の承認(松本理事長)

2007年度第1回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、滝川理事、野田理事が担当することとなった。

< 報告事項 >

1. 庶務報告

滝川理事より2007年6月30日時点の会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。また、会員数の推移および2006年度における入退会者の専門分野別、所属機関別の内訳について報告があった。

2. 会計報告

吉川理事より2006年6月30日現在の会計中間報告について報告があり、了承した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、2007年3月23日(金)に開催された委員会での提案事項について報告があり、下記のとおり了承した。
 ・認定医制度の導入・・・導入の現実化は、法人化や会員の臨床医の比率など、いくつかの基準があるため、実現は難しい。
 ・中期的課題の設定・・・新理事会での協議事項とする。
 ・学術集会終了後のアンケートの実施について・・・承認した。
 ・奨励賞応募分類の改善・・・新理事会での協議事項とする。

2) 編集委員会(清野委員長)

清野編集委員長より、JBMMの編集状況について主に以下の報告があった。
 ・2007年度7月時点での投稿論文は132編であり、内訳は、国内45編、海外87編となっている。
 ・Reject論文数は、2006年度が97編、2007年度のもので59編となっており、論文却下率は、53%である。
 ・2006年度のインパクトファクター値1.468であった。
 ・投稿数の増加を理由に、今後、若手の外国人レフェリーを増やす計画である。
 なお、内科系の編集委員として、杉本利嗣理事の推薦があり、全会一致で承認した。

3) 学術賞・奨励賞委員会(高岡委員長)

高岡第25回会長より、2007年度第1回理事会の前に、学術賞・奨励賞選考委員会を開催した旨報告があり、今年度の受賞者について紹介があった。

4. 第26回日本骨代謝学会準備状況について(松本第26回会長)

松本第26回会長より、第26回と27回の会期が例年より短くなることから、各回の企画内容について重複を避けるため合同プログラム委員会を発足し、両大会の企画について評議員宛てメール上のアンケートを実施した旨、報告があった。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について(松本理事長)

松本理事長より、2007 年度第 1 回理事会以降に届いた「原発性骨粗鬆症の診断基準」の転載依頼 2 件の報告があり、承認した。

< 審議事項 >

1. 新役員の改選について(松本理事長)

松本理事長より、遠藤理事(外科系)、太田理事(外科系)、滝川理事(基礎系)および乗松監事の 4 名が任期満了となる旨報告があった。また、豊島理事より任期途中であるが理事を辞退したいとの申し入れのあった旨報告があった。
各領域の理事が集まり審議した結果、下記の候補者を理事会の満場一致で選出し、評議員会・総会に諮ることとした。

【新役員候補】

< 内科系 >

・大園 恵一 (留任)
・杉本 利嗣 (留任)
・福永 仁夫 (留任)
・松本 俊夫 (留任)

< 外科系 >

・遠藤 直人 宗圓 聡(近畿大・医・整形・リウマチ科)
・太田 博明 水沼 英樹(弘前大・医・産婦人科)
・豊島 良太 萩野 浩(鳥取大・医・リハ部)
・吉川 秀樹 (留任)

< 基礎系 >

・加藤 茂明 (留任)
・滝川 正春 米田 俊之(大阪大・歯・生化学講座)
・野田 政樹 (留任)
・山口 朗 (留任)

< 監 事 >

・清野 佳紀 (留任)
・乗松 尋道 太田 博明(東京女子医大・産婦人科)

2. 会則の改定について(松本理事長)

松本理事長より、現行会則について事務局住所の変更および、各賞の選考規程、役員選出規程などを実績に即した形に改定したい旨の提案があり、新理事会への申し送り事項とした。

2007 年度 第 2 回理事会議事録

(新理事会)

日 時: 2007 年 7 月 18 日(金) 14:00 ~ 16:00

会 場: 大阪国際会議場 10 階 1101-2 会議室

議 事:

< 審議事項 >

1. 新役員の挨拶(松本前理事長)

松本前理事長より、新理事に就任した宗圓理事および水沼理事の紹介があり、抱負が述べられた。

2. 理事担当役ならびに委員会委員長の選出

理事長および副理事長について、出席理事による投票を行い、松本理事を理事長に、山口理事を副理事長に選出した。続いて、理事担当役および委員会委員長について協議した結果、以下の体制で運営する旨、承認した。

< 理事担当役 >

理事長	松本 俊夫
副理事長	山口 朗
理 事	野田 政樹(庶務)
	水沼 英樹(庶務)
	福永 仁夫(財務・骨密度委員長)
	吉川 秀樹(財務)
	大園 恵一(学会誌)
	萩野 浩(広報・広報委員長)
	宗圓 聡(渉外)
	米田 俊之(渉外・国際渉外委員長)
	加藤 茂明(学術・あり方委員長)
	杉本 利嗣(学術・臨床プログラム委員長)
監 事	太田 博明
	清野 佳紀(JBMM 編集委員長)
QOL 委員長	中村 利孝

3. 第 28 回(2010 年)学術集會会長の選出

第 28 回(2010 年)学術集會会長について協議した結果、太田博明監事の推薦があり、全回一致にて承認した。

4. 評議員の定年制導入について

松本理事長より、早乙女紘一評議員より定年退職の為、評議員を辞退したいとの申し出のあった旨報告があり、協議した結果、満 70 歳まで評議員を継続した者は、70 歳を超えた年度より功労評議員となり、年会費は免除されるが評議員の資格を継続して有することを会則に追加する旨を承認した。

5. 第 81 回日本整形外科学会学術総会特別ポスター展示について

松本理事長より、日本整形外科学会より第 81 回学術総会において、各領域における特別ポスター展示の依頼が届いた旨報告があった。受諾について協議した結果、ポスター展示の企画に応じることを了承し、萩野広報担当理事および整形外科の理事を中心に進める旨、了承した。

6. 今後の運営体制について

あり方委員会より申し入れのあった各賞応募分類の改善および、会費長期未納者について協議した結果、現行会則を改訂する旨、承認した。(会則改訂案は下記のとおり。事務局所在地および改訂年月日部分を省略)

【会則】(改定部分抜粋)

第3章 会員

第9条 2年以上会費を納入しない会員は、退会したものとみなす。ただし、留学その他やむを得ない理由により会費後納を希望する者は、文書にて理事長宛にその旨を提出しなければならない。

【会則(諸規定)】(改定部分抜粋)

第3章 評議員の選出および任期(会則第17条による)

第10条

評議員は、継続10年以上の正会員、またはそれと同等以上の学識をもつ正会員の中から選出し、その数は正会員数の10%前後とする。

第14条 学術賞は、骨代謝に関する優れた研究を行った中堅研究者に授与される。

2. 本賞の選考基準は、次の各号に掲げるものとし、原則として毎年基礎系、内科臨床系、および外科・歯科臨床系から各1名・計3名を選出する。

- 1) 優れた研究業績のうち、その主要な部分が国内で行われ、業績のうち、1編以上は Journal of Bone and Mineral Metabolism に発表されていること。
- 2) 本会の学術集会開催年以内に満50歳を越えない者。
- 3) 正会員歴が継続5年以上の者。
3. 本賞の候補者は、評議員の推薦による。被推薦者は、推薦状とともに、履歴書と業績目録各13部、および代表文献5編の別冊各13部、を理事長宛で、学会事務局に提出する。
4. 本賞の受賞者は、賞状および副賞(15万円)が贈呈され、当該年度の学術集会で受賞講演を行う。

(中略)

(中略)

(中略)

第15条 奨励賞は、本会の学術集会で発表する若手研究者の優れた研究について、その発展を奨励するために授与される。

2. 本賞の選考基準は、次の各号に掲げるものとし、原則として毎年基礎形態系、基礎機能系、内科臨床系、外科・歯科臨床系、および疫学系から各1名・計5名を選出する。

- 1) 国内で行われた研究業績に限る。
- 2) 過去に本賞の受賞経験がなく、本会の学術集会開催年以内に満40歳を越えない者。
- 3) 正会員に限る。
- 4) 所属する研究分野は、主に研究を行った機関とする。

第3章 会員

第9条 3年以上会費を納入しない会員は学会誌その他の案内の送付を停止する。
5年以上会費を納入しない会員は、退会したものとみなす。

第3章 評議員の選出および任期(会則第17条による)

第10条

評議員は、継続5年以上の正会員、またはそれと同等以上の学識をもつ正会員の中から選出し、その数は正会員数の10%前後とする。

3. 満70歳まで評議員を継続した者は、70歳を超えた年度より功労評議員となり、年会費は免除されるが評議員の資格を継続して有する。

第14条 学術賞は、骨代謝に関する優れた研究を行った研究者に授与される。

2. 本賞の選考基準は、次の各号に掲げるものとし、原則として毎年基礎系、内科臨床系、および外科・歯科臨床系から各1名・計3名を選出する。

- 1) 優れた研究業績のうち、その主要な部分が国内で行われ、業績のうち、1編以上は Journal of Bone and Mineral Metabolism に発表されていること。
- 2) 本会の学術集会開催時に満55歳未満の者。
- 3) 正会員歴が継続5年以上の者。
3. 本賞の候補者は、評議員の推薦による。被推薦者は、推薦状とともに、履歴書と業績目録各13部、および代表文献5編の別冊各13部、またはこれら一式の電子ファイルを理事長宛で、学会事務局に提出する。
4. 本賞の受賞者は、賞状および副賞(15万円)が贈呈され、当該年度の学術集会で受賞講演を行う。

(追加)

第15条 研究奨励賞は、骨代謝に関する優れた一連の研究を行った中堅研究者に授与される。

2. 本賞の選考基準は、次の各号に掲げるものとし、原則として毎年2名程度を選出する。

- 1) 優れた一連の研究業績の主要な部分が国内で行われていること。
- 2) 本会の学術集会開催時に満45歳未満の者。
- 3) 正会員歴が継続3年以上の者。
3. 本賞の候補者は、評議員の推薦による。被推薦者は、推薦状とともに、履歴書と業績目録各13部、および代表文献5編の別冊各13部、またはこれら一式の電子ファイルを理事長宛で、学会事務局に提出する。
4. 本賞の受賞者は、賞状および副賞(10万円)が贈呈され、当該年度の学術集会で受賞講演を行う。

第16条 優秀演題賞は、本会の学術集会で発表する若手研究者の優れた研究について、その発展を奨励するために授与される。

2. 本賞の選考基準は、次の各号に掲げるものとし、原則として毎年基礎系、臨床系から各2名・計4名程度を選出する。

- 1) 国内で行われた研究業績に限る。
- 2) 過去に本賞の受賞経験がなく、本会の学術集会開催時に満40歳未満の者。
- 3) 正会員に限る。
- 4) 所属する研究分野は、主に研究を行った機関とする。

(追加)

第17条 JBMM 論文賞は、毎年 Journal of Bone and Mineral Metabolism (JBMM) に掲載された論文の中から、原則として最も優れた論文1編の筆頭著者に授与される。

2. 本賞の候補者は Editor および Associate Editor の推薦によるものとし、理事会が選出する。

3. 本賞の受賞者には賞状及び副賞(10万円)が贈呈される。

各種委員会

< 第 20 回 JBMM 編集委員会 >

日 時:2007 年 7 月 18 日(水) 12:00~13:00

場 所:12 階主催者控室

出席者:編集委員長:清野佳紀

Associate editors:大園恵一、加藤茂明、野田政樹、
松本俊夫(理事長)、吉川秀樹

編集秘書:五郎大由似子

欠席者: Associate editors:遠藤直人、田中良哉、中村利孝、福永
仁夫、細井孝之、山口 朗、米田俊之

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を
承認した。

I. 報告事項

1. 発行準備状況

25(4)を7月に予定どおり発行した。26(1)まで発行する準備
ができています。

2007 年より editorial manager を導入し、7 月 11 日までに
132 編の投稿があった。特に海外からの投稿が増加してお
り、本年は 240 編くらいの投稿数が見込まれる。

2. 投稿状況

2007 年 7 月 11 日現在、投稿数 132 編

(うち 59 編 reject、現時点で reject 率 44.6%)

昨年比 165% (132 編/昨年同期 80 編)

2006 年投稿数 151 編 (うち 78 編 reject、reject 率 51.6%)

25 (6)(2007 年 11 月発行予定)は、12 編の論文が採択され、
シュプリンガーへ発送予定である。現在は 59 編が審査中
である。2006 年末までに却下した論文は 97 編で、05 年
は 81 編とおおよそ 2 割増加している。国内投稿が全体の
3分の1で、海外からの投稿は3分の2となり、特にアジア、
EU からの投稿が増加している。

投稿推移

2004 年 149 編 国内 74 編(49.6%) 海外 75 編

(基礎 55 編:36.9%、外科 34 編:22.8%、内科 59 編:39.5%、
内科/基礎 1 編)

2005 年 151 編 国内 58 編(38.1%) 海外 93 編

(基礎 52 編:34.4%、外科 35 編:23.1%、内科 63 編:41.7%、
疫学 1 編)

2006 年 151 編 国内 64 編(42.3%) 海外 87 編

(基礎 46 編:30.5%、外科 26 編:17.2%、内科 78 編:51.7%、
外科/内科 1 編)

2007 年7月 132 編 国内 45 編(34.0%) 海外 87 編

(基礎 53 編:40.1%、臨床 79 編)

地域、国別の内訳:日本 45 編、アジア 34 編、EU 22 編、北米
9 編、中近東 15 編、南米 4 編、モロッコ 2
編、オーストラリア 1 編

アジア: 中国 18 編、香港 1 編、韓国 7 編、タイ 4 編、インド
3 編、スリランカ 1 編

EU: イタリア 4 編、ドイツ 4 編、ギリシア 3 編、スペイン 2
編、ポーランド 2 編、イギリス 2 編、フランス、クロアチ
ア、ロシア、オランダ、ハンガリー1 編

中近東: トルコ 11 編、イラン 2 編、イスラエル 1 編、

北米: USA 9 編

南米: ブラジル 2 編、アルゼンチン、メキシコ 各 1 編

3. プロモーションについて

今回、JBMM のブースを設けて、サンプルを展示している。
また、会場にポスターを貼って、投稿を呼びかける。評議
員においても投稿呼びかけを資料に挟み込む予定であ
る。

9 月にハワイで開催する ASBMR では、ポスター掲示、見本
誌、リーフレットを展示し、JBMM を広く知っていただくた
めにプロモーションする。シュプリンガーの顧客に広告メール
を送る予定である。

II. 協議事項

1. Editorial manager 導入後について

Editorial manager 開始より、半年経過したが、概ね良好に
運営されている。編集事務局より現状について報告され
た。

1) 審査コメントについて、ウェブ上ではシステム環境が同じ場
合に和文が読めるが、著者へはメールで送付するので文字
化けをする。そのような実例があったことを報告された。

コメントを和文にする場合は添付書類にして、アップロードす
ることをレフェリーに確認する必要がある。

レフェリーが和文で入力し、それをアップした場合はその後
に解除できないので、レフェリーに英文コメントを編集事務局
に送ってもらうか、associate editor がレフェリー和文コメントを添
付書類にして、アップロードすることとなる。これらについて、
周知していただくこととした。

2) 招待レビューか投稿レビューか見分けがつかないので、
article type に"invited review"を追加してもらうこととした。

3) レフェリー登録については、211 名となり、アドレスが判明
していない評議員は 10 名となった。**メールアドレスの変更が
あれば、その都度必ず連絡してもらうように周知していただき
たいと希望した。**

Associate editor が信頼できる海外の優秀な研究者がいれば、
editorial board member に推薦していただきたく、編集委員長
へ連絡してもらうこととした。

4) Associate editors は Editor to do list を見て、審査状況を
定期的にチェックすることを再確認した。

5) レフェリーによってはなかなか審査してもらえない場合があ
るが、この状況を把握しておくことが必要であるという意見が
あがった。

6) 各号に掲載する論文数は少し増加傾向にある。採否につ
いては、採択率ではなく、論文の質によって決定することを確
認した。

7) PDF がダウンロードできないという問い合わせがあったが、
理由は不明であった。利用者のパソコン環境およびサーバー
のキャパシティー、セキュリティー等に関係する。

2. Associate editor 増員について

5 月に理事会で協議した時点より投稿が増加している。
そのため、月 3 回以上論文審査を担当することとなり、
associate editor へ負担がかかっている。特に臨床部門の
associate editor が不足しており、島根大学 杉本利嗣教
授が associate editor に推薦され、理事会で了解を得ること
とした。

3. Review 執筆について

学術賞、奨励賞の受賞者はそのレビューを掲載できるようになっているが、5年を超えるとその権利が失効することとした。

今学会にて海外より招聘する研究者にレビュー執筆依頼の手紙を学会事務局 小池先生が手渡し、再度依頼する予定である。

4. インパクトファクター数値について

本年発表された JBMM インパクト指数は昨年より若干増えた1.468であった。引用を増やして数値がアップすることを目標としたい。

< 第21回 JBMM 編集委員会 >

日時:2007年12月21日(金) 13:00~14:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル603号室

出席者:編集委員長:清野佳紀

Associate editors:大園恵一、加藤茂明、杉本利嗣、野田政樹、福永仁夫、松本俊夫(理事長)、山口 朗、吉川秀樹、米田俊之

編集秘書:五郎大由似子

欠席者: Associate editors:遠藤直人、田中良哉、中村利孝、細井孝之

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

I. 報告事項

1. 発行準備状況

25(6)を11月に予定どおり発行した。26(3)まで発行する準備ができている。

2007年よりeditorial managerを導入し、12月14日までに229編の投稿があった。特に海外からの投稿が増加しており、本年は240編くらいの投稿数が見込まれる。

2. 投稿状況

2007年12月14日現在、投稿数 229編 (うち94編reject、現時点でreject率 41.0%)

2006年投稿数 151編 (うち78編 reject、reject率 51.6%)

現在は61編が審査中である。2007年に投稿された論文で却下された論文は94編(一次審査中の論文あり)、06年は151編中79編である。審査国内投稿が全体の3分の1で、海外からの投稿は3分の2となり、特にアジア、EUからの投稿が増加している。

昨年より投稿数が5割アップしているが、採択基準の方針は変わっていないので、掲載論文数が増加傾向にある。

投稿推移

2004年 149編 国内74編(49.6%) 海外75編
(基礎55編:36.9%、外科34編:22.8%、内科59編:39.5%、内科/基礎1編)

2005年 151編 国内58編(38.1%) 海外93編
(基礎52編:34.4%、外科35編:23.1%、内科63編:41.7%、疫学1編)

2006年 151編 国内64編(42.3%) 海外87編
(基礎46編:30.5%、外科26編:17.2%、内科78編:51.7%、外科/内科1編)

2007年 12月 229編 国内74編(32.3%) 海外155編(67.7%)

地域、国別の内訳:日本74編、アジア54編、EU46編、北米18編、中近東24編、南米8編、アフリカ3編、オーストラリア2編

アジア:中国25編、香港2編、韓国12編、タイ5編、インド5編、スリランカ2編、台湾2編、マレーシア1編

EU:イタリア8編、ドイツ7編、フランス5編、ギリシア5編、イギリス5編、クロアチア4編、スペイン4編、ポーランド2編、エストニア、フィンランド、オランダ、ハンガリー、ロシア、スイス 各1編

中近東:トルコ18編、イラン、イスラエル 各2編、レバノン、サウジアラビア 各1編

北米:USA 16編、カナダ2編

南米:ブラジル5編、アルゼンチン2編、メキシコ1編

学術賞受賞論文について:

2007年度受賞、脇谷滋之氏および山口 徹氏よりさっそく原稿が到着した。

11月に科学技術振興会へ科研費の申請を行った。日本骨代謝学会の予算にとって、科研費の助成金は大きいので、ぜひ来年は採択されたいとの希望を理事長が発言した。

3. 審査期間について:

Associate editorへ審査を依頼する頻度は概ね同じであり、レフェリーが要する審査日数により、審査期間が増減している状況である。

II. 協議事項

1. Editorial manager 導入後の審査について

前回編集委員会で議題に上がったとおり、reviewには投稿レビューと招待レビューがあり、審査過程が異なり、誤りやすいので"Invited review"のカテゴリーを追加し、判別しやすくした。

投稿レビューは通常審査を行い、招待レビューは「採択」を前提として、エディターが審査することを確認した。1回目の審査結果でマイナー改訂を要求後、2回目の審査で「却下」や「major revision」とすることはなるべく避けることを確認した。

1回目の改訂で確実なレスポンスができなければ、「却下」の可能性があるとこの旨のコメントを入れておくことで著者に誤解を招かないようにしていただきたいと委員長より要望があった。

Editorial managerを開始して、1年がもうすぐ経過するので、使い勝手等の意見を受け、不都合な点を改善することにした。

レフェリー登録を増やすために著者をレフェリーとして登録してはどうかという意見があった。

Short communicationは出来上がり4ページ以内で、体裁は決めていないが、図は1枚とし、重要な内容を掲載するカテゴリーであることを確認した。

Associate editor 各人の採択率を知りたいとの希望が出た。

Mac OS Xで投稿論文が文字化けして審査できないという場合があったので、原因を調査しているが、不明の状況である。

Associate editorsが審査時に見逃しそうになる項目について、事務局より確認を行った。

レフェリーが誤って、著者コメントとエディターへのコメントを入れていることに気づいた場合は、エディターコメントの画面で訂正する。

Author commentでは原稿に反映されていない事項が書かれていることもあるので、レフェリーを依頼する前に一度確認する。

< 第 6 回骨密度基準値設定委員会 >

日 時:平成 19 年 10 月 7 日(日)15:00~17:00

場 所:八重洲倶楽部 第 3 会議室(東京都)

議題:骨密度基準値設定の作業の報告

(1)収集データの呈示(藤原委員)

性別、部位別、機種別の YAM と年代別の収集データの呈示

(2)データの取り扱い

腰椎(QDR、DCS-900、DPX):L2-4、L1-4 の表記

橈骨:専用装置(DCS-600、DTX-200)のみ

大腿骨近位部(QDR、DCS-900、DPX):頸部、トータル

YAM の年齢:20~29、20~39、20~44 歳

骨密度の表示:T スコア、%YAM

設定に採用に必要なデータ数

NHANES (1988-94) のデータ

との比較について検討した。

(3)検討結果

腰椎 YAM: 女性のみ

L2~4 と L1~4 の双方

QDR については、前回とほぼ同様の YAM 値が得られた。

大腿骨近位部 YAM: 女性のみ

トータル部

橈骨 YAM: 女性のみ

を採用する。

(4)今後の作業

報告書の作成(首根委員)

不足データについては引き続き、収集の予定

関連学会のお知らせ

第 2 回 国際骨免疫学会議 開催のお知らせ

2nd International Conference on Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems

ギリシャ・ロドス島にて、第 2 回国際骨免疫会議が下記のとおり開催されます。

Osteoimmunology (骨免疫学) は、関節リウマチや骨粗鬆症をはじめとする骨関節疾患の病態を免疫系との関連から解明しようとする研究から発展した新しい研究分野です。骨破壊予防への期待が高まる関節リウマチの治療薬の作用機序の理解や新薬開発に大変関連が深いだけでなく、骨粗鬆症、変形性関節症、歯周病、癌に伴う骨痛や骨破壊など、多くの骨関節疾患や免疫疾患における病態や薬剤作用機序の理解および今後の研究開発に大きな意義を持つ分野として発展しております。

この分野の発展には日本からの研究が大きく貢献しており、世界的にも注目されています。是非日本からの積極的な参加をお願いいたします。

記

会期: 2008 年 6 月 8 日 13 日

会場: ギリシャ・ロドス島 Hotel Aldemar Paradise Village

早期参加申込・演題登録締切: 2008 年 3 月 15 日

Travel Awards 申込締切: 2008 年 4 月 15 日 (詳細は下記のホームページをご覧ください。)

エーゲ海カンファレンス事務局 <http://www.aegeanconferences.org/>

日本世話人会事務局 <http://osteimmunology.com/oi.html> (演題のご登録はこちらの英文ホームページより御願致します。)

【Invited Speakers】

Marco Colonna (Washington Univ)

Rudolf Grosschedl (Univ of Munich)

Lionel Ivashkiv (Hosp for Special Surgery)

Melissa Kacena (Indiana Univ)

Henry Kronenberg (Harvard Med Sch)

Ormond MacDougald (Univ of Michigan)

Koichi Matsuo (Keio Univ)

Georg Schett (Univ of Erlangen)

Naoyuki Takahashi (Matsumoto Dental Univ)

Steven Teitelbaum (Washington Univ)

Yen-Tung Andy Teng (Univ of Rochester)

Laurie Glimcher (Harvard Med Sch)

Theresa Guise (Univ of Virginia)

Dallas Jones (Harvard Med Sch)

Toshihisa Komori (Nagasaki Univ)

Tsvee Lapidot (Weizmann Institute)

T. Jack Martin (Univ of Melbourne)

Mary Nakamura (Univ of California, SF)

Edward Schwarz (Univ of Rochester)

Sakae Tanaka (Univ of Tokyo)

Keith Thompson (Univ of Aberdeen)

Irving Weissman (Stanford Univ)

< 国際骨免疫会議日本世話人会 >

東京大学整形外科 中村耕三

東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科学 宮坂信之

順天堂大学免疫学 奥村康

東京大学アレルギー・リウマチ学 沢田哲治

順天堂大学免疫学 中野裕康

東京医科歯科大学分子情報伝達学 高柳広

東京大学アレルギー・リウマチ学 山本一彦

聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 西岡久寿樹

東京大学整形外科 田中栄

順天堂大学越谷病院内科 小林茂人

東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科学 上阪等

< 国際骨免疫会議日本世話人会事務局 >

東京医科歯科大学分子情報伝達学 高柳 広

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45 Tel:03-5803-5471

Fax:03-5803-0193 E-mail:kuma.csi@tmd.ac.jp

第28回日本骨形態計測学会
The 28th Annual Meeting of the Japanese Society for Bone Morphometry
骨の形と機能に対する疾患分子的アプローチの最前線

会期: 2008年7月25日(金)~27日(日)
会場: シェーンバッハ・サボア(東京都千代田区平河町)
会長: 野田政樹(東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子薬理学 教授)
主題: 1、骨形態解析と疾患分子 2、骨質と臨床(生命予後) 3、アパタイトと基質蛋白
4、応力解析と骨 5、性と骨疾患 6、最新骨形態解析法

主なプログラム

- * 特別講演
小澤英浩: 骨の微細形態学 - 方法論の進歩と展望 - 中村利孝: 骨粗鬆症の骨折危険因子の多様性と民族性
伊東昌子: 画像に基づく骨評価の進歩と未来 杉本利嗣: 骨粗鬆症治療の現状と今後の展望
Robert Recker: Bone Micro-architecture and Osteoporosis Treatment
Brendan Boyce: Advances in understanding of the regulation of bone remodeling: where does bone histomorphometry fit in?
- * シンポジウム 1、骨の形と機能への疾患分子的アプローチ
網塚憲生: 骨形成系細胞におけるPTHとPTHrP受容体分子の画像イメージングと機能解析
Brendan Boyce: Roles for cytokines in bone morphology
小守寿文: 骨細胞の生理的役割
加藤茂明: 組織での性ホルモン受容体の高次機能
- * シンポジウム 2、骨質と骨疾患診断治療の最前線
森 諭史: 骨強度決定因子 - 骨密度と骨質 Robert Recker: Oversuppression of Bone
白木正孝: 骨粗鬆症治療と骨質評価 藤原佐枝子: 骨粗鬆症および骨折後の死亡率
- * イブニングセミナー
Robert Recker: Bone Micro-architecture and Osteoporosis Treatment 杉本利嗣: 骨粗鬆症治療の現状と今後の展望
- * ランチョンセミナー
池田恭治: 骨髄の脂肪について考える 高柳広: 新たな破骨細胞制御メカニズム Ghassan Naim Maalouf: DEXA and osteoporosis
- * 骨質ミニシンポジウム 骨質因子の相互作用 - アパタイト vs. 基質蛋白
斎藤充: 石灰化過程におけるコラーゲンの架橋変化とマイクロダメージの相互作用
中野貴由: コラーゲン走行に基づくアパタイトの石灰化と配向形成
東藤正浩: X線回折によるアパタイト - コラーゲン複合構造の力学的挙動観察
- * 骨応力ミニシンポジウム 画像データを用いた骨の力学的評価の現状と展望
大西五三男: 定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測の臨床応用
高野直樹: マイクロCTによる高分解能・高精度応力解析
- * 女性と骨疾患フォーラム 太田博明
吉村典子: 高齢者のOA 田中郁子: ステロイド骨粗鬆症 尾上佳子: 若年者の高骨密度獲得方法論
- * 先端骨形態チュートリアル 骨の形と機能の分子生命科学に迫るイメージング研究のトピックスとQ & A
網塚憲生: [免疫組織化学] 骨の組織化学と免疫電顕の実際と今後の展開
星和夫: [電子顕微鏡] 分析電子顕微鏡を用いた元素局在同定の新展開
上岡寛: [骨細胞] 骨細胞を中心とした骨微細構造のナノレベル3次元解析
伊藤明美: [骨形態計測] マウス骨形態計測の実際と問題点、今後の課題
- * 夏休み高校生・中学生・大学生企画 江尻貞一: 骨の不思議を見てみよう

< 理事会・評議員会・総会 >

理事会: 7月25日(金)11:00 12:00 評議員会: 7月26日(土)8:30 9:00 総会・表彰式: 16:00 16:30
懇親会: 7月25日(金)18:00(予定)ウェルカムパーティー(イブニングセミナー終了後)
7月26日(土)18:00(予定)全員懇親会(イブニングセミナー終了後)

< 演題募集 > インターネットでのオンライン登録のみとし、演題を募集します。
演題募集期間 2008年2月1日(金)~3月15日(土)

< 参加費 > 一般(会員/非会員) 8,000円 事前登録 一般(会員/非会員) 7,000円
大学院生 6,000円 事前登録 一般(会員/非会員) 5,000円
大学生 学会員の教授の紹介があれば無料

< 主催事務局 > 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10 東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子薬理学
TEL / FAX 03-5280-8067 e-mail: noda.mph@mri.tmd.ac.jp

< 運営事務局 > 〒135-8071 東京都江東区有明3-1-22 TFT ビル東館9階株式会社 プロコムインターナショナル
TEL:03-5520-8822 FAX:03-5520-8820

ホームページ:

<http://www.procomu.jp/jsbm2008/>

第2回 Bone Research Seminarのお知らせ

骨代謝関連の研究会として、第2回 Bone Research Seminarを開催致します。本セミナーでは、国内外の主要な骨関連学会において発表された骨代謝基礎研究の最新の情報を、新進気鋭の研究者がより深く掘り下げて講演を致します。また、演題ごとに参加者と講演者が直接ディスカッションする時間を設けておりますので、ぜひ活発なご討論にご参加ください。

会期: 2008年2月29日(金)～3月1日(土)

会場: 丸ビルホール&コンファレンススクエア Room4

〒100-6307 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル8階 TEL:03-3217-7111

<http://www.marunouchi-hc.jp/hc-marubiru/conference/>

参加費: 無料(定員100名)

主催: 中外製薬株式会社

2月29日(金)12:55～18:40

セッション1 テーマ:「破骨細胞」

座長 宮本 健史 (慶應義塾大学医学部 発生・分化生物 / 整形外科 / 運動器機能再建・再生学講座)
宇田川 信之 (松本歯科大学 生化学講座)

演者 小林 泰浩 (松本歯科大学 総合歯科医学研究所 硬組織解析学)
趙 宝紅 (昭和医大学歯学部 口腔生化学教室)
朝霧 成拳 (東京医科歯科大学 分子情報伝達学)
増山 律子 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 生命医科学講座 細胞生物学分野)

セッション2 テーマ:「軟骨細胞」

座長 今村 健志 (財団法人癌研究会 癌研究所 生化学部)
妻木 範行 (大阪大学大学院医学系研究科 骨・軟骨形成制御学)

演者 大島 寧 (東京大学医学部 整形外科)
古市 達哉 (理化学研究所 遺伝子多型研究センター 変形性関節症関連遺伝子研究チーム)

セッション3 テーマ:「ホルモン作用」

座長 杉本 利嗣 (島根大学医学部 内分泌代謝・血液腫瘍内科)
柳瀬 敏彦 (九州大学大学院医学研究院 病態制御内科)

演者 佐藤 信吾 (東京医科歯科大学 整形外科学)
今井 祐記 (大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科)
池田 恭治 (国立長寿医療センター)

セッション4 テーマ:「リン代謝」

座長 福本 誠二 (東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科)
田中 弘之 (岡山済生会総合病院 小児科)

演者 杉田 淳 (大阪大学大学院歯学研究科 生化学講座)
瀬川 博子 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 生体システム栄養科学部門 栄養医科学講座 分子栄養学分野)

3月1日(土) 9:30～11:30

セッション5 テーマ:「骨芽細胞」

座長 竹内 靖博 (虎の門病院 内分泌センター)
西村 理行 (大阪大学大学院歯学研究科 生化学教室)

演者 平田 真 (東京大学大学院医学系研究科 整形外科)
村上 智彦 (宮崎大学医学部 解剖学講座 分子細胞生物学分野)
福田 亨 (埼玉医科大学ゲノム医学研究センター 病態生理部門)
前田信吾 (財団法人癌研究会 癌研究所 生化学部)

- ・ **お申込方法:** 事務局ホームページ<http://conet-cap.jp/bresearch.html>の申込書に必要事項をご記入の上、FAX・郵送、またはE-mailにて下記事務局宛にお申込みください。
- ・ **お問合せ先:** 第2回 Bone Research Seminar 事務局 (株式会社コネット内)
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-5-15 新大阪セントラルタワー8F
FAX: 06-4806-5658 E-mail: bresearch@conet-cap.jp

IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と 2 年に 1 度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

2003 年 6 月には日本骨代謝学会との初めての Joint Meeting が大阪で開催されました。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。



詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、
ご覧ください。